

耕作放棄地に挑む あぶらえおばちゃんのパワー

●柳島あんなさまの会(久々野町)



会員のみなさん。代表の岩佐さん(写真中央)は、「仲間と会えることが楽しみ」と笑顔で語る

今年の2月に立ち上がった柳島あんなさまの会は、久々野町柳島の岩佐富美江さんの呼びかけで集まった55歳から83歳の女性16人。飛驒の伝統食材「あぶらえ(えごま)」を地域の仲間で栽培し、耕作放棄地対策に結び付けようと立ち上がった団体です。

岩佐さんは「耕作放棄された土地を借りたり、あぶらえの育成に必要な農地を借りたりと、最初から段取りが大変だった」と当時を振り返りました。

耕作放棄地に 広がる取組み

栽培にあたって県農業改良普及員の指導を受けながらも、「私はいつとも家でこつこつやって作っ



軽トラックの荷台は会議室。普及員らのアドバイスをメモする岩佐さんの眼差しは真剣そのもの

るんやさ」と会員は自宅での栽培経験も織り交ぜながら、和気あいあいと作業を進めます。

同会は、あぶらえと同じく獣害に強いとされる菊「飛驒黄金」の栽培にもチャレンジし、会の取組みが広がりました。

仲間と地域が元気になれば

「(栽培について)分からにや、柳島を見てやらんかな。気長にがんばらんかな」と、隣の地区から訪れた会員に声をかける岩佐さん。

「仲間が増えて、一緒にやれることが張り合い。み



あぶらえの種まきをする会員

んなの元気が一つになって、地域を活性化できれば」と目を細めて語ってくれました。人々の地元を愛する思いと笑顔がたつぷり注がれた「あぶらえ」と「飛驒黄金」が、再生された耕作放棄地に実りをもたらすのは今年の秋です。

市では、地域の特色を活かして栽培される地域特産物を発掘し、その育成を図っています。

今年度は、獣害に強く、誰でも手軽に栽培できる「あぶらえ」「飛驒黄金」の生産者組織に対して助成しています。

興味のある方は気軽にお問い合わせください。

問合せ先

農務課

35-3141